

私らしい動きかた

OSAKI

SAPOSEN

第4号 2022.October

take free

しゅんしゅんのきもち

「自己啓発」・・・みずからの意思によって自分の能力を高め、心の成長を目指すこと。そして、チャレンジ!!(しゅんしゅんII佐々木俊一・センター長)

特集

踏み出す、はじめの一步!

きっかけは、わたくし自身がもっていた

「まちづくり」をのぞいてみたら

NPOで高校生の夏ボラ体験

この夏、大崎市市民活動サポートセンターでは、「みんなが考えるアゲアゲなまちづくり」をテーマとし、5名の高校生ボランティアの受入れを行いました。

「人のため、誰かのために動ける人になりたい」「学校の授業で地域課題の解決やボランティア活動に関わる機会があり興味をもった」「スクールバス登校だから、まちは車窓から見るだけ。学校の近くをもっと知りたかった」「学校など、様々な想いで参加した高校生たち。彼女らの目には、このまちがどんなふう映ったのでしょうか。そして「市民活動」をどのように理解し、どんな「まちづくり」をイメージしたのでしょうか?

「NPOで高校生の夏ボラ体験」って?
認定特定非営利活動法人「杜の伝言板ゆるる」(仙台市)が2003年より毎年開催している体験プログラム。将来、地域の担い手となる高校生が県内各地のNPO活動に参加し、その存在と意義を理解する「きっかけ」を作るため始められました。

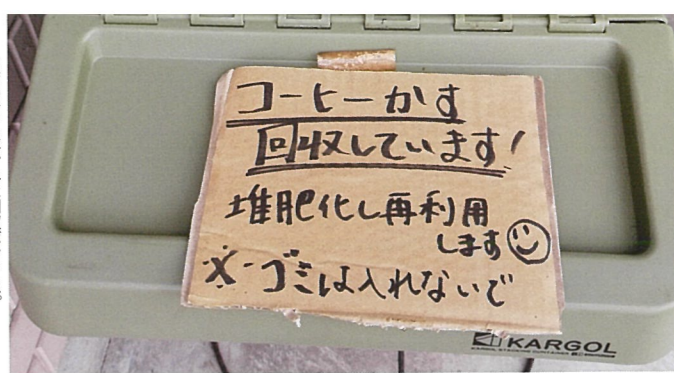
詳しい情報はこちら!



citizen project

いま気になる「市民」プロジェクト

お店の前に置かれた回収ボックス。蓋を開けると、種やかなコーヒーの香り。



お話を聞かせてくれた人
ゆむら商店 湯村 香子さん

2021年9月宮城県初の量り売り専門店「ゆむら商店」を大崎市若山にオープン。CO₂削減を目指し、オフィスや家庭から毎日出るコーヒーかすに注目。肥料化することで資源循環の糸口を模索中。

ゴミを少なくする生活って、未来を作る仕事なのかもしれない。

来る仕組みになれば、とっています。

Q 今後の展望は?

A ご近所さんが気軽に利用できるコミュニティコンポストを設置したいです。遠方のお客様でも、お買い物ついでに入れていただいてもいいですね。みなさんでゴミについて考える場になればと考えています。

Q みなさんに伝えたいことはありますか?

A 当たり前前にプラスチック製品品を使っていますが、どこから来て、どうなっていくのか想像してみてください。そして良ければ調べてみてください。日々の生活の中でモノを大切にすることを大事にして、環境を考えるきっかけにしてほしいです。

Q 現在の活動内容は?

A 京都府で「Name-eco」という団体が、無料でコーヒーかすを回収・堆肥化し、農家や自家菜園、ガーデニングをされている方へ渡すという無償の活動をおこなっています。それをヒントに、私のお店を拠点とし活動したいと思いました。



プラスチックフリーな洗剤、日用品、オーガニック食材のお買い物ができます。
大崎市若山山下川原10-2
営業時間：10時～15時(日・月・金)
※営業日変更の場合があります。
HPまたはInstagramをご確認ください。



column
しゅんしゅんの
つぶやき

どうしたら話し合いがうまくいくのか、場をつくる人たちの悩みです。それは話し合い=決める会議が多いせいかもしれません。たまには決めない会議もあってよいのです。結論の出ない話は実は雑談のように楽しい。中高生を交えて話す「トーク・フォークダンス」という手法は、大人もつい笑顔に。参加した中高生が街で大人に話しかけている、そんな光景が生まれています。世代をつなぐ「話す場」を学校や地域につくっていきませんか。
(しゅんしゅん=小玉順子・おおさき地域創造研究会事務局長)

staffs アナサースカイ

誰かの幸せを想い、願いをこめて動くジカン

今年の夏、息子と「ハウルの動く城」を観ました。息子はハウルの変身姿に大興奮!私は、主人公が掃除婦として汚い城を片付けているシーンに感激!その時、最近始めた洗濯機に入れる前の手洗いを思い出しました。保育園での泥遊びや食べこぼし汚れを落とすために始めたことが、アレ!気持ちも洗濯物もスッキリ!!こんなに違う!?この手洗いが日課となった頃、私にも変化が。明日も友達・先生と楽しい時間を過ごしてほしい、そう願うように。さらには、これがかきかきで、家を居心地よい空間にする!と決意。気持ちの落ち込みやすい今、帰ってきたくなる、ホッとすることそんな場になることを信じて作ってきたリビングで、息子と観た映画でした。

(サポセンスタッフ・楓
小さいころから、掃除が大嫌い。家の中を綺麗にしておくことがどんなに大切かをコロナで実感中。)

大崎市市民活動サポートセンター(サポセン)って?

「地域や暮らしの困りごとをなんとかしたい」「もっとよいまちにしたい」そんな市民のみなさんの想いを「カタチ」にするお手伝いをしています。お気軽にお問い合わせください。

- ◎場をつくります(話し合う場・講座等)
- ◎人と人をつなぎます(人と人・人と地域・団体と行政等)
- ◎相談できます(仲間づくり・NPO法人設立や解散等)
- ◎情報をお届けします(助成金、補助金情報・団体情報等)

会議室や書類保管庫などの施設もあります。活動に役立つ講座も随時開催中。最新情報はSNSをチェック!



サポートセンターをご利用の方には、隣接するJA古川駅前駐車場の2時間無料サービス券を発行しています。
〒989-6162
大崎市古川駅前大通1-5-18
ふるさとプラザ2階
TEL/0229-22-2915
FAX/0229-22-9955
E-mail npo@bz01.plala.or.jp
開館時間：午前9時～午後9時
休館日：毎週月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

OSAKI SAPOSEN 第4号 2022.October
発行企画 大崎市市民活動サポートセンター
編集デザイン オオサキノト編集室



最新情報は
こちらから!

古川駅前サポセンのロビーをクリスマス色に飾るお手伝い大募集! 詳しくは上記QRコードを読み込んでSNSを見てね。

前号のサポセンでお伝えしたのは「モヤっと」こそがまちを変えるタネってことじゃあ、その「モヤっと」をどうにかしたい、芽吹かせたいと思ったら？ 次のステップは「きっかけ」。まずはまちに出て、いろんな「きっかけ」に出会ってみよう。

高校生 まちを歩けば「きっかけ」に当たる！ 夏の“アゲアゲ”なボランティア体験

学校も、学年も、キャラもさまざまな5人。歩いて、語って、ザリガニ獲って・・・高校生ならではのまちづくりの「視点」には、大人が気付かされることもたくさんありました。



1日目 地域を知ろう

古川駅前～七日町～川端周辺を歩いてみました。

- まるで絵本の世界？ 古いすてきな裏道
- ベンチや街灯がおしゃれ♡アンティーク？
- 使えそうな空き店舗がたくさんあった

2日目 活動を知ろう

エコパル化女沼の活動に参加！ザリガニ駆除からみてきた、地域の環境問題。

NPO法人エコパル化女沼 活動をはじめたきっかけは？
理事長・高橋 和吉さん

理事長の高橋さんは、元小学校の先生。地域の自然環境を守り、これからの地域をつくる子どもたちが、楽しく自然環境を学べる場が必要だと感じ、活動を始めたそうです。

エコパル化女沼の情報はこちらから→



3日目 想いをまとめよう

高校生が考えた、アゲアゲなまちづくり！

- 若い人が気軽に過ごせる場所、ほしい！
- ★ピボットの空きスペース使えない？
- ★公園とバスケットゴール
- 古川の名物料理があったらいいな
- ★学校帰りに小腹を満たす部活あがりガッツリ系も！
- ★高校生と商品開発コラボ

3日間の感想聞かせて！ 高校生リアルボイス

- みんなに地元をもっとアピールしたい
- 良い所も改善していくべき所も知ることができた
- パタ崎さんにいろんな所で会いたい！
- ド田舎ともいえない、都会ともいえない、そんな大崎市のイメージをまずは話したい

- 生まれて初めて大崎のまちを歩いて楽しかった。
- 他校の子と知り合えて良かった
- コミュニケーションふれあい交流の場が欲しい
- 企業とコラボして大崎市をPRしたい



担当からひとこと

この3年間はコロナ禍でさまざまに制限され、たくさんの不満もあったと思います。でも、それに負けず自分の進路について夢を語る姿や、慣れない体験でも積極的に取り組む姿は本当にキラキラしていました！最終日にみんなで集まって写真を撮っている様子を見て、この短期間で仲がぐっと近づいたんだあととても嬉しくなりました。3日間本当に最高でした！ありがとうございます！



まちを知りたい、自分を変えたい、モヤっとを何とかしたい…活動のきっかけは人それぞれだと思います。人や情報・資源、またつながることを大切にしている方はぜひ大崎市市民活動サポートセンターまでご連絡ください。スタッフ一同心よりお待ちしております。

case study

市民の活動 もうひとつのカタチ 災害ボランティアを知っていますか？

今年7月の記録的な大雨は市内各地に大きな被害をもたらしました。地元の中高生、県内外ボランティアとともに、浸水被害のあった地域で活動した、大崎市松山に拠点を置く一般社団法人四つ葉の代表・高橋伸実さんにお話を聞きました。



写真右が代表の高橋さん

東日本大震災を機に災害ボランティアを始めました。令和元年の9月に一般社団法人四つ葉を設立。翌月の台風で大崎市古川と鹿島台が被害を受け、法人として支援活動に当たりました。

Q 災害ボランティア立ち上げのきっかけは？

被災地域の細かいニーズをお聞きし、支援物資の配布、ゴミ捨てや泥出し、炊き出しや交流会など開催。被災地と「なにかしたい」という人の繋ぎや、防災の講演会もしています。この夏の災害では、泥で汚れた写真を洗浄する作業も行いました。

Q 「なにかをはじめたい」と思っている10代〜20代にひとことお願いします。

自分のことが好きな人は、ボランティアに参加して、その愛情を他の誰かへ注いでください。自分のことが嫌いな人は、ボランティアに参加し、人から「ありがとう」と言われたり、誰かのために動けた自分のこと、今よりも好きになれるですよ。



一般社団法人 四つ葉の情報はこちらから！

女の子や女性のみなさん、お話を聞かせてください！
「きらっと相談室」

電話090-6684-4970 (平日10時～18時)
※対面相談も行っています/要予約
みやぎの女性つながりサポート型支援事業の委託を受け、おおさき地域創造研究会が実施しています。

ISO900認証 環境と品質の大切さを共に考える
我妻建設株式会社
代表取締役 我妻 孝

大崎市古川小野字馬場25-1
TEL 0229-28-2639 <https://wagatsuma-kk.com>